

2014（平成26）年度 清教学園中・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という建学の精神のもと、「一人ひとりの賜物を生かす」ことのできる質の高い人間教育を行うことを目指す。

- 清教学園の目指す人間像
- ①神を信じ誠実に仕える
 - ②真理を学び賜物を生かす
 - ③隣人と共に平和を築く

2 中期的目標：

教育の質的向上 ～清教「らしさ」・清教メソッドの確立、および運営の質的向上 ～

- 1 教育の質的向上
 - (1) 学力伸張を図る
 - (2) 社会自立・自己実現に向けた夢を育て、志を形成する
 - (3) 高い倫理観と Servant Leadership を育成する *Servant Leadership：「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後、相手を導くものである」という考え
- 2 生徒における学校生活の充実
 - (1) 特別活動の充実
 - (2) 生徒指導の充実
 - (3) 生徒支援
- 3 環境整備力の向上
 - (1) 施設の充実
 - (2) 外部環境への対応
 - (3) 情報の共有化と発信力の促進

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成26年11月・12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p><評価結果の高かった項目></p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は充実した学校生活を送っている (中学生：85.8%、高校生：83.2%) ・学力向上につながる授業が多い (中学生：86.1%) *高校生：77.3% ・電子黒板や書画カメラは学習理解を深める (*中学生のみ) (中学生：90.2%) *前年度87.6% ・熱心に指導してくれる先生が多い (中学生：86.5%、高校生：81.2%) ・家庭への連絡は適切に行われている (中学生：80.8%、高校生：81.4%) <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知り合い等に入学を勧める (中学保護者：84.6%、高校保護者：82.6%) ・規則遵守やマナー/美化意識等を高める指導がなされている (中学保護者：93.9%、高校保護者：94.7%) ・熱心に指導してくれる先生が多い (中学保護者：90.8%、高校保護者：91.3%) ・家庭への連絡は適切に行われている (中学保護者：86.9%、高校保護者：88.4%) <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は充実した学校生活を送っている。(94.1%) <p><評価結果の比較的低かった項目></p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立つ (中学生：68.3%、高校生：60.1%) <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業で十分な学力がつく (高校保護者：68.2%) *中学保護者：72.3% <p><全体総括></p> <p>国際交流に関わる意識が良い形で養われ、前年度比で向上が見られた点は、グローバル教育を推し進めている中、成果と評価できる。まだ自習室や食堂といった施設面での満足度が不十分であり、ハード面の改善について計画を本格化していく必要があると認識する。</p>	<p>学校法人清教学園評議員会をもって学校関係者評価委員会とする。なお、評議員の選定は、寄附行為に基づき、学識経験者、学園卒業生、および学園教職員の3つの枠を設けた上で行われている。</p> <p>2014（平成26）年度については、2015（平成27）年3月28日に学校関係者評価委員会を開催した。</p> <p><意見></p> <p>【学識経験者】</p> <p>○アンケート全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分析の結果をどう使うのかについてもっと具体化していくのが望ましい。 ・全般的に高校生徒においては評価が低くなっているように思われる。教員と生徒の評価結果が乖離している点は早急に改善を要するのではないかと。 <p>○生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨今の社会情勢を見た場合、万一いじめが発生したらどのような対応をするのか、さらに備えておくのがよい。指導をするにしても、きつく対応することでかえって生徒の様子が見えにくくなることもありえるので、十分な配慮をされたい。その意味では、教育相談の充実を図っている点は評価できる。 <p>○学習指導および施設について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導や自習室については改善ができるのではないかと感じる。いずれにせよ、アンケートを実施した以上は、生徒たちにもアンケートを受けての改善内容を何らかの形で発信していくと評価が上がっていくのではないかと。 ・保護者の評価が全般的に高いということに関しては、これまでと同様にPTA活動が今も熱心であるという証ではないかと。とはいえ、「学校の勉強で十分な学力がつく」で比較的評価が低かった点を見れば、自習室の現状をよくご存知だということであろう。また他にも、電子黒板の導入が高校では進んでいないために評価が低い等、評価が低い項目を見ると、保護者の回答は正直な見方を反映しているように思う。電子黒板機能を持ったプロジェクタの導入等で、今後の評価が改善されることを期待する。 <p>【学園卒業生】</p> <p>○教育理念の具現化について ほか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した学園生活を送っているにもかかわらず、入学を勧める気持ちを教員や生徒が持っていないのはブランド化の観点では逆方向だと言える。充実しているのに勧めたくないとなってしまうのには、どんな要素があるのかということをお聞きすることが重要ではないかと。 ・本当にこの学校の良さは何なのかということを生徒自身においても突き詰めていけることが大事なのではないかと。 ・建学の精神に対する理解をさらに高める施策を考えてもらいたい。 ・保護者からのプラス評価が多いが、他校でもそういった状況なのか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育の質的向上	(1) 学園の教育理念への十分な理解に基づく学業生活の推進	<p>ア. 礼拝への積極的な参加を促すことをはじめ、こころの教育のさらなる充実を図り、宗教・人権教育が重要視されていることが十分に理解されるように努める。</p> <p>イ. ソーシャルスキルトレーニング（コミュニケーションワーク）をはじめ、生徒の自己肯定感を高める取り組みを推進する。</p> <p>ウ. グローバルリーダー育成のプログラムをさらに積極化・多様化させ、生徒において国際交流活動が身近なものだとさらに認識されるように図る。</p>	<p>学校評価アンケートにおける結果を分析することを通じて評価するのを基本とする。</p> <p>ア. 建学の精神に関する理解、および宗教・人権教育の重要視する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→前者について生徒：中66.8%、高64.9%、保護者：中80.4%、高86.4%、教員：56.5%、また後者については生徒：中77.4%、高83.0%、保護者：中91.7%、高89.9%、教員70.6%)</p> <p>イ. 生徒が充実した学園生活を送っているかに関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中85.8%、高83.2%、保護者：中94.0%、高93.1%、教員94.1%)</p> <p>ウ. グローバル教育（語学研修や留学）が充実しているに関する評価結果がどの生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中75.7%、高77.6%、保護者：中91.2%、高88.5%)</p>	<p>ア. 建学の精神に関する理解については、中高とも前年度に続き保護者からの評価が高い（中学87.9%、高校88.1%）が、高校生および教員においては40%近くが低い評価である。学園の教育方針に触れる機会を増やす改善を進めたい。また宗教・人権教育については、中学生で幾分か80%に届かなかったものの（77.6%）、他の対象者枠では高く評価されている（82.5～93.6%）。心の豊かさを真剣に求める時代背景を反映した期待の表れと捉え、引き続き努力を重ねたい。（△）</p> <p>イ. 高校生においては80%を下回ったこと（79.2%）から、生徒の視点から見た形での改善策を具体化できるように努める必要がある。（△）</p> <p>ウ. グローバル教育については、取り組み内容が新たな段階に入り日常の学業生活にいつそう溶け込む工夫が施されたことから、とりわけ高校生における効果への実感が高まり、評価結果が80%を超えるようになった（80.5%）。（○）</p>
	(2) 学力向上をもたらす学習指導の工夫、および生徒の自主的な学習姿勢の育成	<p>エ. ICT等の積極的な活用をはじめ、生徒における授業内容の理解を促すような工夫を継続する。</p> <p>オ. 個々の生徒における学習到達状況を把握し、各人の学習意欲を受けとめられるような丁寧な指導に努める。</p> <p>カ. 生徒の自主的な学習姿勢および課題発見・解決力を育成するために図書館教育の機能をさらに有効化させる。</p>	<p>エ. 学力向上につながる授業が多いか（主要5教科平均）および電子黒板の学習効果に関する評価結果が生徒において80%以上 (前年度→生徒：中86.2%、高75.6%)</p> <p>オ. 「学校のみで十分な学力がつく」「理解が不十分なときに面倒を見てくれる」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中71.5%、高64.8%、保護者：中71.1%、高65.0%)</p> <p>カ. 「図書館教育は知的関心を高める」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中78.6%、高60.7%、保護者：中90.1%、高84.7%)</p> <p>キ. 「将来の進路・職業の適切な指導を行っている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中59.3%、高71.6%、保護者：中83.5%、高84.6%)</p>	<p>エ. 中学生においては、前年度に引き続き全教科で80%を超える評価結果が得られた。他方、学習内容が精緻化し負荷の多くなる高校においては前年度と同様80%に届かなかった（77.3%）が、低評価者が30%を超えるような教科は皆無であり、分かりやすい授業を行うための工夫を今後も重ねていきたい。加えてアクティブラーニングの手法を取り入れ、生徒が自主的・積極的に学習に取り組み、充実度の向上も図りたい。なお、電子黒板の効果については90.2%におよぶ生徒が高く評価し、活用方法の質をさらに高めることで生徒における学習意欲の向上につながると考えられる。（△）</p> <p>オ. 高校生においては、前年度に続き「学校のみで十分な学力がつく」について低評価者率が30%を超えた（36.3% *前年度35.1%）。自習室の利用のしやすさ等、環境整備の点でも工夫を施して改善を図りたい。また、高校保護者においては、面倒見の観点での評価が80%を上回るように改善され、そのための努力が学力定着の観点での満足度にもつながっていくことが次の課題である。（△）</p> <p>カ. 府内一位の貸出数を誇る本校図書館「リブラリア」ではあるが、図書館と高校のHR教室との近くはない位置関係のために、高校生における評価（65.7%）は必ずしも高くない。改善には図書館を利用してもらえぬ強力な施策が必要である。（△）</p> <p>キ. 中高とも新たなプログラムの実施等で改善の動きが出ているが（中学生徒63.8%、高校生徒73.6%）、実施1年目の段階では評価結果への効果は十分には出なかった。進路部が中心となり、今後も職業体験プログラムの拡充等により、改善を図る予定である。（△）</p>
	(3) キャリア教育の拡充を含む進路指導の充実化	<p>キ. 将来つきたい職業のイメージを喚起できるような機会を増やし、進路に関して明確な夢・目標が持てる指導を図る。</p>	<p>キ. 「将来の進路・職業の適切な指導を行っている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中59.3%、高71.6%、保護者：中83.5%、高84.6%)</p>	<p>エ. 中学生においては、前年度に引き続き全教科で80%を超える評価結果が得られた。他方、学習内容が精緻化し負荷の多くなる高校においては前年度と同様80%に届かなかった（77.3%）が、低評価者が30%を超えるような教科は皆無であり、分かりやすい授業を行うための工夫を今後も重ねていきたい。加えてアクティブラーニングの手法を取り入れ、生徒が自主的・積極的に学習に取り組み、充実度の向上も図りたい。なお、電子黒板の効果については90.2%におよぶ生徒が高く評価し、活用方法の質をさらに高めることで生徒における学習意欲の向上につながると考えられる。（△）</p> <p>オ. 高校生においては、前年度に続き「学校のみで十分な学力がつく」について低評価者率が30%を超えた（36.3% *前年度35.1%）。自習室の利用のしやすさ等、環境整備の点でも工夫を施して改善を図りたい。また、高校保護者においては、面倒見の観点での評価が80%を上回るように改善され、そのための努力が学力定着の観点での満足度にもつながっていくことが次の課題である。（△）</p> <p>カ. 府内一位の貸出数を誇る本校図書館「リブラリア」ではあるが、図書館と高校のHR教室との近くはない位置関係のために、高校生における評価（65.7%）は必ずしも高くない。改善には図書館を利用してもらえぬ強力な施策が必要である。（△）</p> <p>キ. 中高とも新たなプログラムの実施等で改善の動きが出ているが（中学生徒63.8%、高校生徒73.6%）、実施1年目の段階では評価結果への効果は十分には出なかった。進路部が中心となり、今後も職業体験プログラムの拡充等により、改善を図る予定である。（△）</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 生徒における学校生活の充実</p>	<p>(1) リーダーシップの育成にも資する特別活動の充実化</p>	<p>ア. 生徒が主体となって参加・運営する学校行事のあり方を追求していく。 イ. 勉学と課外活動の両立を謳う本校においてはとくに、両者のバランスがきちんと確立されているということが求められており、学内外の関係者において納得してもらえる状況を作っていくのが重要である。</p>	<p>ア. 「学校行事は生徒が積極的に参加できるように工夫されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 82.5%、高 71.5%、保護者：中 93.6%、高 88.4%、教員：76.4%)</p>	<p>ア. 中学生、保護者、教員においては高い評価を得たが(いずれも80%超)、高校生については約3割において課題があると思われる(30.1%)、前年度比でも低調になっている。文化祭の実施を含め、行事に多様性を施す工夫について検討に改めて着手したい。(△)</p>
	<p>(2) 社会性の高まるような生徒指導の充実化</p>	<p>ウ. 規則遵守の促進、美化意識の向上、いじめのない学校作りへの取り組みを通じて、学校生活における基本的環境を整えられるように図る。</p>	<p>イ. 「部活動は勉強時間が確保できるように配慮されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 68.4%、高 57.9%、保護者：中 77.5%、高 70.4%、教員 61.2%)</p>	<p>イ. 中学における幾分かの改善は認められるが(71.4%)、前年度に引き続き、高校生、高校保護者、教員からの評価は高くなかった(いずれも80%未満)。多くの関係者がさらなる配慮を求めていることは明らかであり、けじめを大切にしながら、部活動の成果と学習面における指導との両輪が揃う仕方を本格的に検討していく必要がある。(△)</p>
	<p>(3) 生徒が安心して学校生活がおくれるような生徒支援の推進</p> <p>*前年度は生徒支援にて分析していた図書館教育および国際交流については「1 教育の質的向上」において扱う</p>	<p>エ. 学校生活の基盤たる健康の促進を図るべく、生徒における健康意識の醸成に努める。 オ. 生徒のメンタルヘルスの維持のため、親身になって対応にあたるように努める。それにあたっては、専門家との連携も進め、カウンセリングマインドの醸成をさらに図りたい。</p>	<p>ウ. 「規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 79.4%、高 79.9%、保護者：中 91.7%、高 93.2%、教員 74.1%) エ. 「保健教育を通じて健康管理の大切さが高まっているか」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中 75.0%、高 77.5%、保護者：中 84.1%、高 87.2%) オ. 「悩みや相談に親身になってくれる教員がいるか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 65.6%、高 68.7%、保護者：中 83.7%、高 86.0%、教員 96.5%)</p>	<p>ウ. 前年度に引き続き、中高とも保護者から高い評価を得ている(いずれも80%超)。中学生においては評価が上がっており(83.0%)、生徒における意識そのものも向上したことがうかがえる。今後は高校生においても同様に効果が見られる状況になっていくよう、さらに指導に努めたい(77.4%)。(△) エ. これも前年度に引き続き、保護者においては80%超の高い評価となっている。生徒においては、まだ80%に満たない状態であるが(中学78.6%、高校74.3%)、「保健だより」の発行等により良好な傾向にあると言える。(○) オ. 保護者における評価が高い一方で(中学88.5%、高校90.1%)、生徒における評価は前年度と同様に高いとは言えない状況が続いている(中学67.3%、高校69.3%)。教員の自己評価(93.2%)との乖離があるため、生徒の悩みとするところをきちんと把握し、生徒本人が満足できるまで聞き取ってあげられるよう、カウンセリングマインドの醸成をまだまだ必要としている。(△)</p>

<p>3 環境整備力の向上</p>	<p>(1) 施設の充実</p> <p>(2) 外部環境への対応</p> <p>(3) 情報の共有化と発信力の促進</p>	<p>ア. 自習室の環境をより良いものとし、生徒たちが自学自習の習慣を身につけられるように図る。</p> <p>イ. 利用しやすい食堂となるように改善を進める。</p> <p>ウ. 通学路の保守をはじめ、災害や不審者から生徒の安全を守るためのさらなる努力を重ねたい。</p> <p>エ. 保護者との連絡を密に行うことを通じて、生徒の学内外における状況を的確に把握し、健全な成長を促す環境形成を図りたい。</p> <p>オ. ホームページ等を通じた発信を強化するとともに、生徒たち自身への訴求力もあるような発信内容の作成を行なって、学内の活性化がさらに図れるように工夫を施したい。</p>	<p>ア. 「自習室は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 67.5%、高 70.4%、保護者：中 80.0%、高 80.4%、教員 73.0%)</p> <p>イ. 「食堂は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 *高校のみ (前年度→生徒：高 69.9%、保護者：高 69.0%、教員 60.0%)</p> <p>ウ. 「災害や不審者から生徒を守るか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 70.3%、高 73.8%、保護者：中 89.8%、高 89.0%、教員 74.2%)</p> <p>エ. 「家庭への連絡は適切に行われているか」に関する評価結果が保護者枠においても80%以上 (前年度→保護者：中 85.4%、高校：86.6%)</p> <p>オ. 「ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中 69.8%、高 60.2%、保護者：中 89.0%、高 86.7%、教員 81.2%)</p>	<p>ア. 生徒における評価が下降気味であり(中学 65.0%、高校 66.4%)、改善策の具体化を要する状況である。生徒における不満点をアンケートの実施等で把握しなおすところから始めたい。(×)</p> <p>イ. 教員および高校生からの評価は前年度同様に低い状況である(高校生徒 66.9%、教員 55.7%)。メニュー面、収容スペース面、営業時間面のどれが大きな課題になっているか、再調査の上、改めて改善を図りたい。(×)</p> <p>ウ. 前年度に引き続き、中高とも保護者からの信頼は厚い(中学 89.1%、高校 88.8%)。生徒たちを守るための関係者における連携を継続し、安心して学校生活を送れる環境づくりに邁進したい。(○)</p> <p>エ. 前年度に引き続き、保護者との連携については、高い水準で信頼感を保つことができている(中学：86.9%、高校：88.4%)。PTAとの良い関係を今後も構築するように努めることが大切である。(○)</p> <p>オ. 保護者からの反応については前年度を上回るものになっている(中学 91.4%、高校 88.4%)。ただ、生徒自身の関心を引き出せているかについては、まだまだ低い評価状態である(中学 68.3%、高校 60.1%)。より生徒の関心を引くような内容作りとなる工夫を施していきたい。(△)</p>
-----------------------	---	---	--	--

以上